

理科(物理・化学・生物・地学) 北海道大学 総合入試【理系】、学部入試【水産】

<全体分析>

試験時間 2科目 150分

解答形式

空所補充・記述・論述・選択・計算

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

昨年度と同様に計算過程を記述する問題は5題であったが、字数指定の論述問題の字数が大幅に減少(410字→255字)した。

出題の特徴や昨年との変更点

論述は例年通り「〇〇字以内」という形式で15字～60字にまとめる問題であり、オーソドックスな内容であるが、文章をまとめるのにやや時間を要する。

その他トピックス

1問2の化学組成比(質量%)を問う問題は、2023年度北大オープン(2022年度実施)2問3で扱った。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	空所補充 記述 計算 論述 選択	火成岩と堆積岩	地学 地学基礎	問2の計算問題以外は、基本的な内容なので確実に得点したい。問3(2)は30字以内でまとめるのが手間取るかもしれない。	やや易
2	空所補充 選択 論述 記述 計算	プレートテクトニクス	地学 地学基礎	問1(1)の空所は頻出語句ではないため、知識が抜けている受験者もいただろう。(イ)でGPSはアメリカ合衆国の人工衛星による位置決定システムなので、各国のシステムの総称としてはGNSSとなる。問4(2)は単位に注意して計算を進める。	やや易
3	空所補充 記述 論述 計算	大気と海洋	地学 地学基礎	問4と問5は単位に注意して計算を進める。問5は津波(長波)の速さの式を覚えていなければ解くことはできないので、差がついただろう。	やや易
4	空所補充 選択 論述 計算	恒星の進化	地学 地学基礎	問1と問2は基本的な内容なので、高得点を狙いたい。問4はケプラーの第3法則を利用すればよい	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

十分に合格点に到達するためには、教科書に記載されている内容をきちんと理解しておかなければならない。一部、教科書にない用語や現象を取り上げることもあるので、地学を得点源にしたい・高得点を狙う受験生は、他大学の過去問などでしっかり演習をしておく必要がある。また、計算問題では計算過程を書く場合が多いので、普段から計算の流れを書く習慣をつけておきたい。論述問題は字数制限が「〇〇字程度」ではなく、「〇〇字以内」なので、文章をまとめる力も養っておこう。